

### Web 公開用研究成果概要

所 属	
氏 名	永井登志樹

研究テーマ	ジオパークの視点を通して菅江真澄の記録（図絵）を読み解き、こうした地域の文化遺産の活用が今後のジオパーク活動において重要かつ有用であることを検証する。
-------	---

関連分野	地質学 地理学 民俗学
------	-------------------

対象フィールド	男鹿半島・大瀧ジオパーク 八峰白神ジオパーク ゆざわジオパーク
---------	---------------------------------------

キーワード	菅江真澄 景観変化と場所の物語 文理融合型のジオパーク
-------	-----------------------------------

 <p>八峰白神ジオパーク Hoppo-Shirakami Geopark</p> <p>男鹿半島・大瀧ジオパーク</p> <p>ゆざわジオパーク</p> <p>Mt. Chokai &amp; Tobishima Island Geopark Plan 鳥海山・飛島ジオパーク構想</p>	<p>本研究成果概要は秋田県ジオパーク連絡協議会による「平成 27 年度秋田県ジオパーク研究助成事業」公募研究に採択された研究の成果である。</p>
--	--

**秋田県ジオパーク連絡協議会**

研究成果概要 (A4 用紙で 1 枚程度)

菅江真澄の旅の記録とその業績については、自然科学や博物学的教養を身につけた自然観察者としての側面を評価する声が少なからずある。真澄の自然科学的なものの見方は、旅立つ前の尾張（愛知県）での修学時代に本草学を学び、各地をめぐる旅の中で知識と技能を培っていったと考えられている。人びとの営為にも目を向けた民俗採集者であったと同時に、本草学を修めたすぐれた自然観察者でもあった菅江真澄が描き残した記録（図絵）には、歴史的・文化的事象だけでなく、「景観変化と場所の物語」を汲み取るための多くの素材が隠されており、それを読み解くことで、地域固有の大地の物語（ジオストーリー）がはっきりとした形をともなって見えてくる。



菅江真澄が描いた

「椿の白岩」

(男鹿半島・大潟ジオパーク)

「小安峡大噴湯」

(ゆざわジオパーク)

「白瀑」

(八峰白神ジオパーク)

秋田県には男鹿半島・大潟、ゆざわ、八峰白神の 3 つの日本ジオパークがあるが、いずれも菅江真澄の足跡が濃厚な地域である。真澄が描いた図絵と比較しながらこれらのジオパークのジオサイトを観察すると、岩石の形、海面の高さ、樹木の生育状況、人家の戸数、道路の位置などおよそ 200 年間の景観変化が、わかりやすい形で提示され、時間と空間を想像力で自由に行き来するジオツーリズムの旅の面白さ、楽しさへと誘われる。菅江真澄が描いたジオサイトの図絵を読み解く作業を通じて、ジオを楽しみ理解するためのジオツーリズムの新たな可能性を指摘でき、自然科学、人文科学の垣根を超えた多様で多面的な文理融合型ジオパークへの発展の可能性が明らかとなった。

(上掲図絵は 3 図とも秋田県立博物館蔵の写本である)